Week 2 ソシュール先生

Lecture 1

- 伝えたい意味は記号(sign)で表すことができる.
- 言語で意味を伝えるとき, その記号の単位は文 (sentence) である.
  「はい」「眠い」など, 一語でも文である.
- ソシュール先生(Ferdinand de Saussure)は, 伝えたい意味を signifié, それを伝えるための記号を signifiant と呼び分けた.
- 伝えたい意味と, その記号とには何の関係もないことが多い.
  日本語では「温泉そのもの」を, /onsen/という音の並び(あるいはそれを文字で表したもの)で呼ぶが, たまたまそういう名前になっただけのこと. 別の名前で呼んでいたとしても不思議ではない. その証拠に, 英語圏では/spa/という音の並びが「温泉そのもの」を示す.
- ソシュール先生流に言うと, シニフィアンとシニフィエとの関係は, 恣意的(arbitrary)である.
  ただし右の温泉の「記号」は「温泉そのもの」の特徴を図示しており, 100%恣意的ではない.

- 伝えたい意味と, その記号とには何の関係もないのなら, それらの関係を覚える必要が生じる.
  /onsen/が「お湯の沸いている場所のこと」であることを, 覚える必要が生じる.
- 「熱い温泉」「冷たい温泉」「肩こりに効く温泉」「アトピーに効く温泉」「赤い温泉」. . . と, すべてに名前をつけるのは大変だし, 覚える方も大変だ. これらの温泉に全て別々の温泉マークを付けると, 余計見にくい.
- そこで「熱い」「冷たい」「肩こり」「効く」等の意味を表す単語(word)を設定すれば, それらと/onsen/を組み合わせることにより, 覚える単語の数を減らすことができる.
- 「熱い温泉」は「熱い」と「温泉」に分節(articulate)できる. すなわち, 文は単語に分けることができる.

- 「昨日栗林駅へ行った」という文は「栗林駅へ」の代わりに「山田は」「やっと」. . . 等を入れ替えて入れることができる.
  栗林駅へ, 山田は, やっと, は, それぞれ paradigm (タテ)な関係.

昨日	栗林駅へ	行った
	*栗林駅は	
	*山田へ	
	山田は	
	やっと	

- 「*へ栗林駅」と並べると, 日本語としては間違いである.
  単語の並びは syntax (ヨコ)の関係.

Lecture 2

- ソシュール先生は, 個々人が個別の場面で使用する言語をパロール(parole)と呼び, 日本語や英語などの個別言語の使用者が全て共通に持つ(抽象的)言語であるラング(langue)と区別した.
- 日本語を話す能力(competence)は十分にあっても, 好きな人の前ではうまく話せないこともある(performance error!).

Lecture 3

- 世界中の言語の数はいくつか, という議論は, 「方言」(dialect)とは何かを定義しないと決定できない.
- 基礎的な単語の発音が規則的に対応する場合, 同系(cognate)の言語だと判断し, 同語族(language family)に入れる. 自分の初修言語はどのようなグループか?
- 「わたしの本」を表したいとき, 「わたし」「本」という語順で示す孤立(isolating)語, 「の」をくっつける膠着(agglutinative)語, 「わたし」を I でなく my へ変化する屈折(inflectional)語, と分類することがある.

- 日本語は SOV, AN(「赤い本」), 後置(「わたしの」), 英語は SVO, AN (cf. something hot), 前置(of me)

- （今日のグループ討議）
  未発見の言語を操る人の目の前を，ウサギに似た動物が走り去った！
  それを指さして，その人はあなたに「ガバガイ」と言った！

  文「ガバガイ」が表す意味を推測しなさい．